

小学3年生でかかったヘルペスを発端に、原因不明の高熱、子宮筋腫、激痛を経験され松本医院にたどり着いた患者さんの手記

「リウマチ・ヘルペス手記（中間報告）」匿名希望

40歳

2014年3月1日

1. はじめに

生後4ヶ月の時にはじめて高熱を出して病院に行きました。風邪で扁桃腺が腫れ、気管支炎になっているとの診断でした。幼い頃は体の抵抗力が弱く、ずっと耳鼻科で処方してもらった薬を飲んでいました。

2. リウマチの予兆

5歳頃に耳鼻科の先生から、血液検査から少しリウマチが出てる。腎臓も弱い。気をつけておくようにといわれました。小学校に通い始めたぐらいから、体が疲れたり足が冷えたりすると、膝から下全体と腕がズーン、ズーンと痛みました。ゆっくり休み次の日になると治ってしまうのであまり気にしませんでした。

3. 水痘帯状ヘルペス発症

小学校3年生の時に、左腕が痛みで上げられなくなりました。母に整形外科に連れて行ってもらいました。先生が左腕を上げてみると、小さい赤い斑点が3つありました。水痘帯状ヘルペスでした。先生は「ヘルペスやなー。これからえらいことになっていくで。」と言いました。「えらいこと…って何?!」と思いましたが、それから毎日どんどん赤い斑点が増えていき、ズキズキ、ピリピリする痛みと熱が出てきました。その頃は抗ヘルペス剤の飲み薬などは無く、毎日ひたすら通院して白い軟膏を左上半身全体に塗ってもらいました。熱ができれば解熱剤の頓服薬を処方してもらいました。痛みにはただ耐えてウンウン言って寝込んでいました。赤い斑点はに水疱になり次第に破れて左上半身がジュクジュクになりました。先生は「土日も裏から入っておいで、毎日塗らなあかんからね。」とあって土日も診てくださいました。次第にかさぶたになりましたが、かさぶたを一枚一枚ピンセットで剥がしてそこへまた軟膏を塗りました。治りかけは痒いので冷たい軟膏が気持ちよかったのを覚えています。完治するまで2ヶ月間程だったと記憶していますが、土日も診療し続けて下さった先生にとても感謝しました。当時私はこれで、ヘルペスは完治したと思っていました。

2012年10月に松本医院にくるまではずっとそう思っていたのです。それからも時々足や腕は痛むことはあったのですが、疲れからくる神経痛か何かだと思って気にしていませんでした。ただ幼い時からずっと自分は周りの人より疲れやすいし体が弱いという気持ちはありました。

4. 原因不明の症状で入院

高校3年生の時、朝起きて左首のリンパ腺に何個も大豆ぐらいの大きさのしこりがびっしりあるのに気付き、驚きのあまりサーッと血の気が引いて、父に「これ見て!何これ!」と言って見てもらったら、学校休んですぐ病院に行くように言われたので近くの内科へ行きました。先生からいきなり「今の医学ではあなたを救えないかもしれません。今まで診たことの無い症状です。」と言われました。私は驚きと言われた内容が受け止められずに頭が真っ白になりました。「救えないって、どうなるんですか 私、今はなんともないですけど。」と聞くと先生は「おそらく何日かすれば高熱が出てくるでしょうから、とりあえず解熱剤の頓服を処方します。様子を見ましょう。」と言って薬を処方してくれました。そして何日かして39.5度~40度の高熱が出てきましたので、その内科へ行き点滴をして、また薬をもらって帰りました。朝は熱が下がるものの、昼~夜にかけて39.5度~40度の高熱が出るのを1週間ほど繰り返しましたが、見かねた父が大きい病院に連れて行ってくれました。即入院でした。入院して24時間点滴を毎日し続けても更に1週間程は熱が下がりませんでした。苦しいし、頭痛もすごいのでもっと解熱剤を入れて下さいとお願いしたらこれ以上できないと言われました。本当に苦しいと訴えたら両脇に氷のパックを挟んでくれました。頭が朦朧としていました。胃も痛んできてだんだん水を飲むのも嫌になって行きました。毎朝5時頃に看護婦さんが採血にきてくれていましたが、ある朝、血が出なくなりました。採血の注射の針が血管に入っているのに、出る血液がないのです。普通はサーッと出てくるのに、出ないものですから、看護婦さんがギュウギュウ吸引するのですが、ゼリーの様になって少しだけ出ました。看護婦さんは顔に汗をかきながら、やっと少しとれたので、「これでいいです。」と言って行ってしまいました。私は(体に血がもう無いってこと?死ぬのかな?)と思いましたが、いいや、絶対治る、絶対、絶対治って退院する!!と自分に言い聞かせました。血液が出なかったので、朝食の時間の後(いつも食べれないし、取りに行くこともできないから、誰かが持ってきてくれて、知らない間に降ろしてくれていました。)主治医が飛んできて「吐いてもいいから、お願いだから飲んで食べてくれ。じゃないと治らないよ。」と説得に来ました。「何種類も点滴を試しても熱が下がらないし原因がわからない、こんなにリンパ腺が腫れているのに白血球の数値が上がらない。普通ではありえない状態なので、首を切開してリンパ節を何本か切除してとって、リンパの中の成分を培養させて原因を調べます。」と言いました。昼間に先生が何人も研修生と来て私の病状を説明しました。みんな珍しがっていました。2週間ほど経って、熱が38.5度まで

下がりました。これで一気に楽になりました。それで少しずつ食べれるようになり、あとはめきめき回復していき首のしこりも消えていきました。家族は私の命は助からないかもしれないと先生から宣告されていたそうです。結局、何が原因だったのかと先生に聞くと「調べたけど、最後まで原因は解らなかった。ただ合う薬があったようで、それを投与し続けたら熱が引いて、回復していった。」とのことでした。リンパ腺をとってまで調べたのに解らないってことあるのかと不思議に思いました。

5. 原因不明のまま回復し退院

退院後は無事に高校を卒業して就職をしましたが、疲れが溜まるとひどい頭痛になやまされました。平日の仕事の日は大丈夫なのに、休日になると頭がガンガン痛み、右目の奥も同じ様に疼いて吐き気がして寝込む日がよくありました。それと同時に生理痛と排卵痛がひどくなり、排卵期はお腹と腰全体と膝下までズクズク疼きました。その時は市販薬の痛み止めを飲んでしのぎました。生理と排卵の期間が過ぎれば、その痛みは治ってしまうので病院へは行きませんでした。

6. 子宮筋腫摘出手術・不妊治療開始

それから結婚をしたのですが、忙しさに体力が追い付かず体調不良の日が増え、家事との両立が難しくなり退職しました。ある日、市の健康診断の子宮がん検査を受けたら子宮筋腫が見つかり、摘出手術を受けました。続いて不妊治療を受けました。不妊治療を受けるようになって体の調子が更に悪化し、めまいや吐き気、排卵痛がひどくなりました。不妊治療のホルモン注射や体温を上げるための注射、排卵の数を3つも4つも増やすための注射をするとお腹がパンパンに張ってとても痛みました。痛み止めの薬は飲んではいけなかったのが本当に辛かったです。そして排卵の数を増やす注射を自分でお腹に毎日打つのと、体温を上げる注射を定期的に病院で打ってもらうのをして、更に体外受精をしてやっと妊娠しました。

7. 流産

赤ちゃんの心臓ができてきて心拍を確認した段階で体温を上げる注射を主治医が止めました。でも次の週に診てもらった時には心臓が止まっていました。いくら注射でホルモン治療をしても、ある程度赤ちゃんが育ったら、それからは母体本来の機能で育てるらしいのです。私は注射をやめた途端赤ちゃんの心臓が止まってしまったのだから、今まで注射のおかげで育てただけで、私自身のホルモン機能や子宮の問題は何ら解決しないまま来ていたのだな、と思いました。これでは何度挑戦しても同じことが起きそうな気がしてなりません。不妊治療はそれっきり諦めました。体の調子がおかしいまま過ごしていました。はじめはあまり食事が進まず、洗濯をして横になり、洗い物をして

横になり、ひとつとしては横にならなければもたないくらいしんどかったです。顔色が悪くひどい立ちくらみがして外に出るのが億劫で、買い物に行くのも嫌でした。一年程ゆっくり過ごしているうちに次第に楽になってきてパートの仕事にいくことにしました。

8. 激痛

パートに就いて半年を過ぎたあたりのある朝、激痛で目が覚めました。胸から下全体と背中、腰が一枚の岩みたいに固くなって動けません。仰向けも、うつ伏せも、横向けもなにをしても痛くて痛くてどうなってしまったの?と思うくらいどうにもできない。イタイ、イタイとわめきながら主人にさすってもらいましたが、どうにかなるような痛みではない。痛み止めの薬を飲んでも体中が痛い。どうしよう、腕も手の先までしびれている、普通ではない。その日は休みを取り近所の産婦人科へ行きました。診てもらったところ、子宮から少し出血した形跡があるだけで気にする程でも無いという診断で、痛み止めのロキソニンが処方されました。

9. 主人が通っていた松本医院に行く

そして主人が通っていた松本医院で女性の子宮の病気も治してくれたという手記を読んだと主人に勧められ、私も一緒に行って診てもらおうということになり、2012年10月にはじめて受診しました。主人の治療で付き添いで行っていて、松本先生は信頼していましたので安心していました。手がしびれていること、首や肩、背中、足、足の付け根が痛いのと、生理中、排卵期に腰から足まで痛むこと、妊娠できないことを伝えました。先生は「必ず治してあげる。治らない病気は無い。大丈夫、僕が治してあげるから。」と言って握手してくださいました。主人にいつもそう言って下さることが励みになっていましたが、自分も言ってもらえて本当に元気ができました。先生はゆっくり私の今までの症状を聞いてくれて、30分程かけてヘルペスが影響していること、ヘルペスウイルスは神経節にいて、一度かかると完治することは無い事、幼い時にかかったヘルペスウイルスが今までずっと体の不調に影響していたことを説明してくださいました。体力が回復すると免疫力が上がってきてヘルペスウイルスと戦う。その時に痛みが生じるので、痛むからと言って悪い事ではないので心配しないでいいこと。他いろいろ説明して下さいました。それで、子宮を温める漢方と子宮の炎症を抑える漢方とベルクスロン400mgを処方して下さいました。処方してもらった漢方は薄茶色で濁っていました。味は、はじめ少し甘く後から苦いです。飲んで2週間ほどはひどい下痢になりました。ベルクスロンを飲むと3日程で楽になりました。特に背中痛み、体の中心からくるだるさなどによく効きました。血液検査の結果を聞いて驚きました。「あんた、膠原病やで。リウマチや。でも心配ない。治るからね。あとヘルペスがやっぱり高めやな。」ということで、次の処方箋は膠原病の煎じ漢方がメインとなり、子宮の薬は粉薬の

漢方になりました。関節や足の付け根の痛み、手のしびれはリウマチ、背中や首、肩の痛みはヘルペスということでした。この時の数値は、抗核抗体80、水痘帯状ヘルペス+24.9でした。

10. 退職し回復傾向

この頃はパートに行っていましたが、パソコンに向かっていると吐き気で涙がでてきました。頭痛と眼痛と吐き気に耐えながらベルクスロンを飲んでいました。一年更新のパートだったので、継続を断念して2013年3月末で退職しました。それから2013年4月の血液検査で抗核抗体40に下がりました。すごく嬉しかったです。先生からもリウマチは気にしなくていいよと言ってもらえました。それから、子宮の漢方を煎じ薬に変えてもらい、体の痛いときはベルクスロンを処方してもらっています。だんだん生理痛が楽になり、排卵痛も前より痛みが治まってきています。膝下まで痛むことは無くなりました。疲れが溜まると背中や足が痛むことはまだありますが、だんだんムズムズしてきてもうすぐ痛むのがわかるようになってきましたので、その時は無理せずゆっくり休むようにし、痛む前にベルクスロンを1錠ずつ飲むように予防したら、本格的にズキズキ疼くようなことは本当に少なくなってきました。事前の対処法がわかると、気持ちも余裕がでてきて体に対する不安が少なくなり、気持ちが明るくなりました。また少しずつ歩いたり運動をはじめ、家事などは簡単にこなせるまでに回復しました。焦らず治していき、また社会復帰をしたいのでこれからも頑張ろうと思います。

11. 最後に

松本先生のお顔を拝見し、お話するだけで心が明るく楽しくなります。病気になるとそれしか考えられなくなるし、痛みで何も出来なくなり、とても辛いし暗くなります。家事すら出来ない時は、自分を責めてしまって泣きわめくこともあります。そんな私たち患者の心に寄り添ってくれもし、笑わせてくれもし、叱り飛ばしてくれもする先生のものすごいパワーは、溢れんばかりのエネルギーは、枯れることの無いあの情熱はどこから来るのでしょうか。待合室まで話し声が響いてくる先生のパワーにいつも尊敬と感謝でいっぱいです。先生がいてくださってよかったと、いつも主人と話しています。

松本先生本当にありがとうございます。

副院長先生、いつもありがとうございます。

鍼灸の先生、自宅でのお灸いつもさぼってごめんなさい。

看護婦さんいつもお薬の郵送ありがとうございます。

これからもよろしく願いいたします。